ＵＮＭＩＳＳにおける自衛隊の活動について

防　　衛　　省

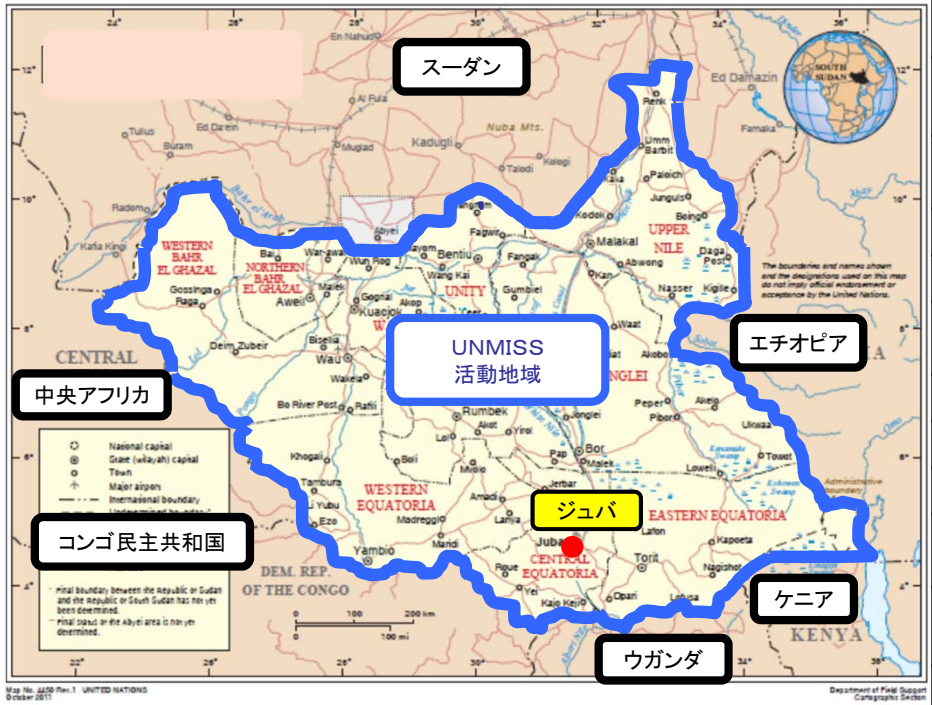
平　成　２　９　年　４　月

UNMISSの概要及び自衛隊の派遣状況

○国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）の設立経緯等

- ○ スーダンでは昭和53年以来、20年以上南北対立が継続
- ○ 平成17年1月9日、南北包括的和平合意（CPA）が成立し、和平プロセスを開始
- ○ 平成23年7月9日、国連は、新たに国際連合南スーダン共和国ミッション（UNMISS）を設立
- ○ 平成25年12月の政府側と反政府側との衝突以降、国造りから文民保護に活動の重点を変更
- ○ 平成27年8月、政府側と反政府側は衝突の解決に関する合意を締結
- ○ 平成28年12月、キール大統領が国民対話の呼びかけを表明

名称	国連南スーダン共和国ミッション（UN Mission in the Republic of South Sudan）
任務	ミッション・マンデート （平成27年12月以降） 1 文民保護 2 人権状況の監視及び調査 3 人道支援実施の環境作り 4 「合意」の履行支援 ※現マンデート期限： 平成29年12月15日
規模	軍事部門：約17,000名※ 警察部門：約2,100名 ※地域保護部隊4,000名含む。
地域	南スーダン全域 （司令部： ジュバ）



部隊等派遣の経緯等	
平23．7．9	南スーダン共和国独立に伴い、UNMISS設立
平23．11．15	実施計画（司令部要員2名（兵站幕僚及び情報幕僚）の派遣）の閣議決定
平23．11月、平24．2月	第1次司令部要員派遣
平23．12．20	実施計画変更（施設部隊及び司令部要員（施設幕僚）の派遣）の閣議決定
平24．1月～3月	施設部隊等第1次要員を順次派遣
平24．5月、6月	施設部隊等第2次要員を順次派遣（以降、施設部隊については約6ヶ月毎に交代）
平25．5．28	派遣施設隊の活動地域拡大に関する自衛隊行動命令発出
平25．10．15	実施計画変更（施設部隊の人員増加等）の閣議決定
平26．5．13	派遣施設隊の編成変更に関する自衛隊行動命令発令
平26．10．21	実施計画変更（司令部要員（航空幕僚）の派遣等）の閣議決定
平27．12月	第7次司令部要員（兵站及び航空運用幕僚）を派遣
平28．6月	第8次司令部要員（情報及び施設幕僚）派遣
平28．11．15	実施計画の変更（駆け付け警護の付与等）の閣議決定
平28．11．18	派遣施設隊の活動地域限定等に関する自衛隊行動命令発出
平28．11月～12月	施設部隊第11次要員を順次派遣
平29．3．24	実施計画変更（活動期間の延長）の閣議決定 南スーダン国際平和協力業務の終結に関する自衛隊行動命令発出

○自衛隊の派遣状況

○司令部要員（4名）：平成23年11月から派遣。UNMISS司令部においてUNMISSの活動に関する兵站、情報、施設、航空運用に関する企画及び調整などを実施。いずれも陸上自衛官。

○施設部隊（約350名）：平成24年1月から派遣。国連施設内外の施設の補修や道路整備等を実施。

南スーダンPKOに派遣されている施設部隊の編成

1次要員： CRF基幹（一部北部方面隊）
2次要員： 北部方面隊基幹
3次要員： 東北方面隊基幹
4次要員： 西部方面隊基幹
5次要員： 中部方面隊基幹
6次要員： 北部方面隊基幹
7次要員： 東北方面隊基幹
8次要員： 西部方面隊基幹
9次要員： 中部方面隊基幹
10次要員： 北部方面隊基幹
11次要員： 東北方面隊基幹

南スーダン派遣施設隊

約350名

派遣部隊指揮官（1佐）

- 隊本部
- 本部付隊
- 施設器材小隊
- 施設小隊
- 撤収支援隊
- 警備小隊
- 警務班

大型重機主体の部隊（※）

マンパワー主体の部隊

※派遣施設隊長は、司法警察業務に関する事項を除き、派遣警務班を指揮

主要な施設器材及び車両　計約180両

ドーザ

グレーダ（※）

油圧ショベル

バケットローダ（※）

軽装甲機動車

主要な武器

9mm拳銃

89式小銃

5．56mm機関銃
MINIMI

施設部隊の活動内容の変遷

施設部隊は、平成24年1月から現在までの5年を超える活動を通じ、道路補修 （延べ210km）、用地造成 （延べ50万㎡）、側溝整備（約72km）、施設の構築等（94カ所）等を実施

国連マンデート【国造り】 → 変更 → 国連マンデート【文民保護】

H24.10～H25.12 → 治安状況の悪化 H25.12 → H25.12～H26.6 → H26.5 → H26.5～H28.7 → 治安状況の悪化 H28.7 → H28.7～

国造り

幹線道路の補修

ジュバ大学の敷地造成

コミュニティ道路の整備（ODA連携）

避難民支援活動（国連施設内）

避難民への医療活動

避難民への給水活動

避難民用トイレの設置

人道支援実施の環境作り・文民保護支援（国連施設内外）

避難民保護区域の整備

ジュバ・ロコン間道路補修

ジュバ河川港防護柵設置（ODA連携）

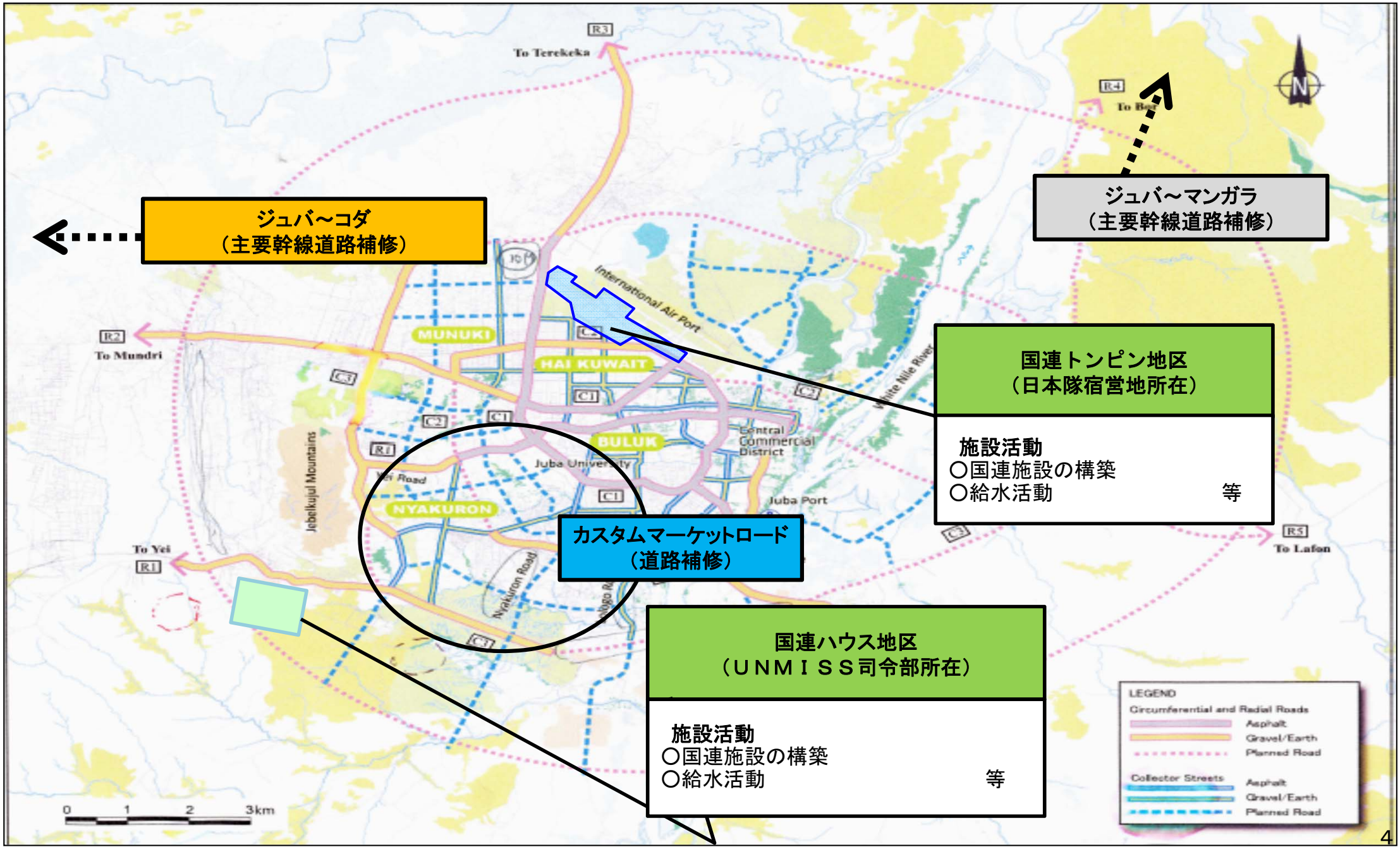
最近の活動

ジュバ市内道路補修

ジュバ・コダ間道路補修

国連ハウス地区外壁構築

現在の自衛隊施設部隊の活動



ODAとの連携について

〇国際平和協力活動に効率的・効果的に対応するため、南スーダンにおける自衛隊施設部隊の活動に当たっても、ＯＤＡやＮＧＯ等との連携を重視し、オール・ジャパンとしての連携活動を実施。

ODAとの連携の例

〇 浄水場内老朽化施設の解体：ジュバ市浄水場に存在していた老朽施設を解体。UNMISS日本隊として、UNMISSと調整の上、国際協力機構（JICA）が行うジュバ市浄水場能力強化のためのプロジェクトと連携し、政府開発援助（ODA）と連携した初の案件。

〇 ナバリ地区コミュニティ道路整備：草の根無償資金協力によって調達された資材を使用し、コミュニティのための生活道路及び排水のための側溝を整備。また、事前作業として活動現場の清掃作業を地元住民と協力して実施。作業に当たっては、政府雇用の現地作業員による排水溝の石積を実施。

〇 ジュバ河川港防護柵設置：JICAの実施するジュバ河川港整備事業の円滑な実施を、作業現場に防護柵を設置することで支援。

ジュバ市浄水場内老朽施設の解体
(H24.10(2次要員)、H25.7(4次要員))

作業前（左）と、作業後の様子（右）。

ナバリ地区コミュニティ道路整備(H25.1-11(3次要員～4次要員))

路面浸食の状況（上左）と、降雨時の冠水状況（上右）。整備後（下）。

活動地域における地元住民との清掃作業（左）と、道路整備作業の様子（右）。

ジュバ河川港防護柵設置
(H27.4-5(7次要員))

作業前（上）と、作業後の様子（下）。

国際機関及び他国派遣部隊等との連携について

国連機関との連携の例

WFP敷地内道路等整備作業

自衛隊がジュバ市内の国連世界食糧計画（WFP）敷地内の道路及び駐車場の整備を実施。

UNHCR帰還民一時収容施設の敷地造成

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）帰還民の一時収容施設建設のため、自衛隊が敷地造成及び簡易木造施設の建設を実施。

横断歩道舗装プロジェクト（民生協力活動）

UNICEF主催の現地小学生を対象とした横断歩道の塗装イベントに対して、豪軍、インド軍要員と連携して参加し、小学生への指導を共同で実施。

他国部隊等との連携の例

ルワンダ隊へのコンテナ構築支援

ルワンダ航空部隊居住コンテナ構築支援を実施。

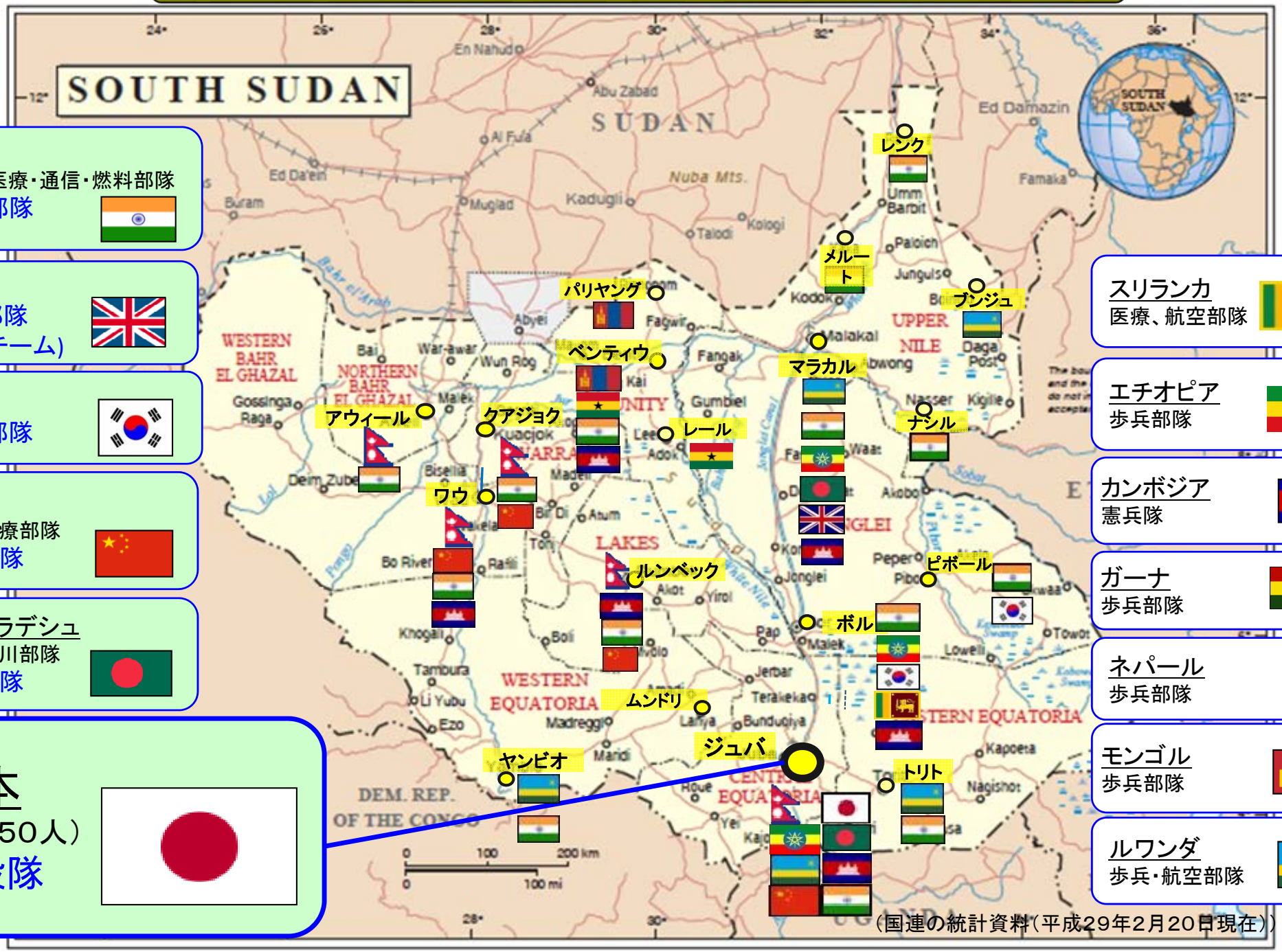
ジュバ市孤児院グラウンド整備

インド歩兵部隊と連携し、ジュバ市孤児院においてグラウンド整備を実施。

ジュバ・ロコン間道路整備

バングラデシュ工兵隊と連携し、ジュバ・ロコン間の道路整備を一部実施。

ＵＮＭＩＳＳの状況（部隊展開状況）



インド
歩兵・医療・通信・燃料部隊
工兵部隊

英国
工兵部隊
(先遣チーム)

韓国
工兵部隊

中国
歩兵・医療部隊
工兵部隊

バングラデシュ
歩兵・河川部隊
工兵部隊

日本
（約350人）
施設隊

スリランカ
医療、航空部隊

エチオピア
歩兵部隊

カンボジア
憲兵隊

ガーナ
歩兵部隊

ネパール
歩兵部隊

モンゴル
歩兵部隊

ルワンダ
歩兵・航空部隊

（国連の統計資料（平成29年2月20日現在））

国際平和協力活動に使用される施設器材等

＜中型ドーザ＞
〇諸元
・全　　長　5，430～　6，450㎜
・全　　幅　3，970～　4，170㎜
・全　　高　2，995～　3，185㎜
・全 備 重 量　1，610～1，720kg

＜油圧ショベル＞
〇諸元
・全　　長　9，350～　9，490㎜
・全　　幅　2，810～　2，990㎜
・全　　高　3，050～　3，070㎜
・車両総重量　20，000kg

＜グレーダ＞
〇諸元
・全　長　7，890㎜　全　幅　2，380㎜
・全　高　3，520㎜
・車両総重量　12，060kg

＜バケットローダ＞
〇諸元
・全　　長　7，045～　7，160㎜
・全　　幅　2，450㎜
・全　　高　4，855～4，955㎜
・車両総重量　10，420～10，810kg

＜浄水セット、逆浸透型＞
〇諸元
・浄 水 量　3．5ｔ／ｈ（70ｔ／日）
・貯水能力　10ｔ

自衛隊装備年鑑2009−2010（朝雲出版社）より